

Influence of the watch and wait strategy on clinical outcomes of patients with follicular lymphoma in the rituximab era

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 油田, さや子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002050

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1881 号

Influence of the watch and wait strategy on clinical outcomes of patients with follicular lymphoma in the rituximab era

(リツキシマブ時代における、無治療経過観察を選択された濾胞性リンパ腫患者の臨床経過)

油田 さや子 (ゆだ さやこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、初発時の治療方針として無治療経過観察または早期治療介入を選択された濾胞性リンパ腫患者の臨床経過について、後方視的に検討したものである。無治療経過観察群と早期治療介入群の比較では、初回治療後の腫瘍増大までの期間、全生存期間、形質転換するまでの期間のいずれも有意差を認めなかった。本研究では、リツキシマブ時代においても、一部の FL 患者では無治療経過観察が許容される初回治療の選択肢の一つであることが示唆される結果であった。これまでの濾胞性リンパ腫における無治療経過観察についての報告としては、リツキシマブ時代以降にも海外から複数あるものの、対象患者の選択やエンドポイントの設定について議論の余地があるものである。また、日本を含めたアジア圏からの報告はない。FL に対する無治療経過観察あるいは早期治療介入の妥当性に関する研究は、企業治験等では実施困難であるものの、今後の医師主導臨床試験を計画するための根拠になりうる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。